

書評



Neil B. Sandson, M.D. 著, 上島国利, 樋口輝彦 監訳,
山下さおり, 尾鷲登志美, 佐藤真由美 訳

精神科薬物相互作用ハンドブック

兼子 直

薬物療法を行う医師必携の書

本書では精神科, 内科, 神経内科, 外科・麻酔科, 婦人科・腫瘍科・皮膚科領域において薬物治療中にみられた症状をケーススタディとして示し, それを薬物相互作用の観点から解析している。薬物相互作用の理解は患者が訴える症状を適切に診断し, 対処するうえできわめて重要である。つまり, 薬物相互作用の理解は薬物治療中にみられる症状を「新たな症状ととらえ不要な検査や追加処方」を避けるうえで重要であり, かつ, その知識は適切に対応するうえで必要不可欠である。関連する知識は最近の分子遺伝学の発展で大きく進歩しており, 本書はかかる進歩を踏まえて合理的に理解できるように工夫して書かれている。

第1章の定義に関する内容では臨床家がしばしば誤解する基質, 阻害薬, 誘導物質などの解説が平易に記載されており, 理解を助けている。

本書の特徴の1つはケーススタディごとに考察があり, さらに解説に関連する参考文献が明記されていることである。精神科医が処方する薬剤だけでなく, 他科の医師により処方される薬剤がどのような機序で相互作用を起こすかの記述は, 臨床経験の深い医師でも参考となる点が少ない。その解説は平易かつ理論的に記載されており, これは医師が自らの症例の症状の理解に役立つだけでなく, さらにその知識を深めるうえでも有用である。また, 引用され

た論文は自らが論文を書くうえでも基盤となる文献である。

第二の特徴は P450 の陰に隠れて議論されることの少ないグルクロン酸転移酵素に触れていることである。たとえば, バルプロ酸のように, 多くに疾患で使用される薬剤の中にはグルクロン酸転移酵素に対する作用を無視できない薬剤があるからである。

第三の特徴は本書の最後にまとめられている4つの付録である。A) 向精神薬の薬物相互作用—総論, B) P450 一覧表, C) UGT または第二相(グルクロン酸抱合)表, D) P 糖蛋白質関連の一覧表である。付録 B~D では P450 各分子種で代謝される薬剤, 阻害薬, 誘導物質が見事に整理されており, この付録だけでも本書を入手する価値は十分にある。付録 A には精神科で汎用される薬剤についての解説があり, これも若手読者の理解を高める。臨床に多忙な医師にとり, 多数の原著を読み, 考えをまとめることは時間的に困難さを伴うが, 本書はそれを解決する本である。薬物療法を行う医師にとり本書は必須の書となった。ケーススタディで相互作用を理解するだけでなく, 本書を外来, 病棟に置き, 処方をするとき, あるいは予期せぬ症状が現れたときには付録が大いに役立つものと考えている。

(弘前大学大学院神経精神医学)

●A5 424 頁 2010 定価 5,250 円(本体
5,000 円+税) 医学書院